

漢字のチエック

次の——線部の漢字は読み方を平仮名で、太字の片仮名は漢字で書いて答えなさい。送り仮名が付くものは、平仮名で送り仮名も書きなさい。

1 読み

- ① 奉行 ()
- ② 奉仕 ()
- ③ 黙許 ()
- ④ 心得違い ()
- ⑤ 繰り言 ()
- ⑥ 所詮 ()
- ⑦ 役柄 ()
- ⑧ 陥る ()
- ⑨ 宰領 ()
- ⑩ 執る ()
- ⑪ 公儀 ()
- ⑫ 輪郭 ()
- ⑬ 割く ()
- ⑭ 濃淡 ()
- ⑮ 黙る ()
- ⑯ 幾度 ()
- ⑰ 御親切 ()
- ⑱ 小銭 ()
- ⑲ 引き締める ()
- ⑳ 恥ずかしい ()
- ㉑ 授ける ()
- ㉒ 懸隔 ()
- ㉓ 出納 ()
- ㉔ お役御免 ()
- ㉕ 係累 ()
- ㉖ 恐れ入る ()
- ㉗ 飢え ()
- ㉘ 伏す ()

2 書き

- ① 手紙をワタス。 ()
- ② 宝石をヌスム。 ()
- ③ 大半をシメル。 ()
- ④ 教会のカネの音。 ()
- ⑤ 失敗をクヤム。 ()
- ⑥ ヒサンな出来事。 ()
- ⑦ 不幸なキョウグウ。 ()
- ⑧ 布でオオウ。 ()
- ⑨ アワレな身の上。 ()
- ⑩ ナミダもろい男。 ()
- ⑪ 不正をキラウ。 ()
- ⑫ 若葉のコロ。 ()
- ⑬ メズラシイ花。 ()
- ⑭ 広いヤシキ。 ()
- ⑮ 港のサンバシ。 ()
- ⑯ 馬がヤセル。 ()
- ⑰ ウスイ布団。 ()
- ⑱ ベッドでネル。 ()
- ⑲ 天をアオグ。 ()
- ⑳ 星がカガヤク。 ()
- ㉑ 手をハナス。 ()
- ㉒ キガネする。 ()
- ㉓ 風がフク。 ()
- ㉔ 調子がクルウ。 ()
- ㉕ トツゼンの出来事。 ()
- ㉖ ジヒにすぎる。 ()
- ㉗ オニの面。 ()
- ㉘ キキ迫る演技。 ()
- ㉙ 言葉をツグ。 ()
- ㉚ 道をタズネル。 ()
- ㉛ 別れをオシム。 ()
- ㉜ ケンヤクにはげむ。 ()
- ㉝ ムカエに行く。 ()
- ㉞ 喉 ()
- ㉟ 恨めしい ()
- ㊱ 憎々しい ()

- 34 () 金のカンジヨウ。 ()
- 35 () チヨウジリが合う。 ()
- 36 () 自らをカエリミル。 ()
- 37 () 部活動のコモン。 ()
- 38 () ケタが違(ちが)う。 ()
- 39 () チヨチクする。 ()
- 40 () 音にオドロク。 ()
- 41 () バクゼンとした考え。 ()
- 42 () タクワエが尽(つく)きる。 ()
- 43 () キヨウイ的な記録。 ()
- 44 () フシンな行動。 ()
- 45 () ノキシタで休む。 ()
- 46 () イツケンヤに住む。 ()
- 47 () 寒さにコゴエル。 ()
- 48 () お金をカセグ。 ()
- 49 () 息をハク。 ()
- 50 () 念をオス。 ()
- 51 () 足がスベル。 ()
- 52 () 針をヌク。 ()
- 53 () ねじをユルメル。 ()
- 54 () トホウに暮れる。 ()
- 55 () サイソクする。 ()
- 56 () 注意をウナガス。 ()
- 57 () 机にヒジをつく。 ()
- 58 () 思いウカブ。 ()
- 59 () 苦痛にタエル。 ()
- 60 () 見るにシノビナイ。 ()
- 未来の私にお薦めの本の漢字 (94～95ページ)
- ① 表をブンセキする。 ()
- ② マンガを読む。 ()
- ③ 推薦 ()
- ◆文学史 「高瀬舟」について説明した次の文の () に当てはまる言葉を書きなさい。
- 「高瀬舟」は、 () によって書かれた小説である。作者の別の作品としては、日本人の若い官吏とドイツの踊り子との恋を描いた小説である。「 () 」や、安寿と厨子王の姉弟の物語を題材にした「山椒大夫」の他、「雁」「渋江抽斎」などがある。

学習のポイント

1 文章の展開を押さえる

高瀬舟とは	<ul style="list-style-type: none"> ・遠島となった罪人は、高瀬舟で大阪へ送られ、同心が護送する。 ・罪人の悲惨な境遇を聞くことになる高瀬舟の宰領は、不快な職務と嫌われていた。
喜助の様子 (庄兵衛の視点)	<ul style="list-style-type: none"> ・弟殺しの罪人、喜助の護送を命じられた羽田庄兵衛 ・喜助が普通の罪人とは違い、楽しそうな様子なのを不思議に思う。
喜助の話①	<p>喜助の話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦しい生活をしてきたので、島に落ち着けることがありがたい。 ・今まで仕事をしても金は手元に残らなかった。 ↓ 遠島にあたってお上から二百文もらったことがうれしい。 <p>庄兵衛の考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給料を右から左へ人に渡して暮らす点で自分と喜助は同じだが…… <p>大なる懸隔</p> <ul style="list-style-type: none"> 庄兵衛：先の心配をして満足を覚えたことがない。 喜助：欲がなく、足ることを知っている。
喜助の話②	<p>喜助の話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病気の弟が、兄(喜助)に楽をさせたいと剃刀で自殺を図る。 ↓ 死に切れず、刃を抜いて死なせてくれと頼まれ、その通りにした。 <p>庄兵衛の考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弟を苦から救うために命を断ったことが人殺しの罪なのだろうかという疑いが生じ、どうしても解けない。 ↓ 自分より上のもの(オオトリテエお奉行様)の判断に従うほかないと思うが、腑に落ちぬものが残った。

2 文学史

森鷗外(一八六二～一九二二年)は、石見国(今の島根県の一部)津和野で藩医を務める家の長男として生まれた。東京医学学校(東京大学医学部)を卒業後、陸軍軍医となりドイツに留学。帰国後、小説「舞姫」を発表。創作・翻訳など幅広い分野で活躍した。主な作品に「雁」「山椒大夫」「渋江抽斎」などがある。

練習問題 1

◆ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

庄兵衛はまともには見ていぬが、^①始終、喜助の顔から目を離さずにいる。そして、不思議だ、不思議だと、心の内で繰り返している。それは喜助の顔が、縦から見ても、横から見ても、^②いかにも楽しそう、もし役人に対する気兼ねがなかったなら、口笛を吹き始めるとか、鼻歌を歌いだすとかしそうに思われたからである。

庄兵衛は心の内に思った。これまで、この高瀬舟の宰領をしたことは幾度だかしない。しかし乗せてゆく罪人は、いつもほとんど同じように、目も当てられぬ気の毒な様子をしていた。それに、この男はどうしたのだらう。遊山船にでも乗ったような顔をしている。罪は弟を殺したのだそうだが、よしや、その弟が悪いやつで、それをどんな行きがかりになって殺したにせよ、人の情としていい心持ちはせぬはずである。この色の青い痩せ男が、その人の情というものが全く欠けているほどの、世にもまれな悪人であろうか。どうも、そうは思われない。ひよつと気でも狂っているのではあるまいか。いやいや。それにしても、何一つじつまの合わぬ言葉や挙動がない。この男はどうしたのだらう。庄兵衛がためには、^③喜助の態度が考えれば考えるほどわからなくなるのである。

しばらくして、庄兵衛はこらえ切れなくなって呼びかけた。「喜助。おまえ何を思っているのか。」

「はい。」と言って、辺りを見回した喜助は、何事をお役人に見とめられたのではないかと気遣うらしく、居ずまいを直して庄兵衛の気色をうかがった。

庄兵衛は、自分が突然問いを発した動機を明かして、役目を離れた応対を求める言い訳をしなくてはならぬように感じた。そこでこう言った。



(1) 線①「始終、喜助の顔から目を離さずにいる」とあるが、なぜか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 喜助が目も当てられないほど気の毒な様子をしているから。
- イ 高瀬舟の宰領をつとめるのは初めてで緊張していたから。
- ウ 喜助の様子が今まで見てきた罪人の様子とは違っていたから。
- エ 喜助が弟を殺しても平気である世にもまれな悪人だから。

(2) 線②「いかにも楽しそう」とあるが、このような喜助の表情をたとえて表現している部分を、文章中から十三字で書き抜きなさい。

(3) 線③「喜助の態度が考えれば考えるほどわからなくなる」とあるが、なぜか。次の文の()に当てはまる言葉を書きなさい。

弟を殺したのに楽しそうな様子をしているというのは普通ではないが、

思えないから。

(4) 線④「こらえ切れなくなって呼びかけた」について、次の各問いに答えなさい。

- ① 「こらえ切れなくなって」とはどういうことか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 喜助の不思議な態度が気味悪くなって
- イ 喜助への腹立たしい気持ちが高まって
- ウ 時間がなくなってしまうとあせって
- エ 知りたい気持ちが抑えられなくなって

「いや。別に、訳があつてきいたのではない。実はな、おれはきつきからおまえの島へ行く心持がきいてみたかったのだ。おれはこれまで、この舟で大勢の人を島へ送った。それはずいぶんいろいろな身の上の人だったが、どれもこれも島へ行くのを悲しがって、見送りに来て、いっしょに舟に乗る親類の者と夜通し泣くに決まっていた。それに、おまえの様子を見れば、どうも島へ行くのを苦にしているようにうだ。いったいおまえはどう思っているのだい。」

喜助はにっこり笑つた。「御親切におっしゃつてくださつて、ありがとうございます。なるほど島へ行くということは、ほかの人には悲しいこととてございましょう。その心持ちは、私にも思ひやってみることができません。しかしそれは、世間で楽をしていた人だからでございます。京都は結構な土地ではございますが、その結構な土地で、これまで私のいたして参つたような苦しきは、どこへ参つてもなまろうと存じます。お上のお慈悲で、命を助けて島へやつてくださいます。島は、よしやつらい所でも、鬼のすむ所ではございますまい。私はこれまで、どこといつて自分のいい所というものがございせんでした。今度お上で、島にいろとおっしゃつてくださいます。そのいろとおっしゃる所に落ち着いていることができませんが、まず何よりもありがたいこととてございませう。それに私は、こんなにか弱い体ではございますが、ついで病氣をいたしたことはございせんから、島へ行つてから、どんなつらい仕事をしたつて、体を痛めるようなことはあるまいと存じます。それから今度、島へおやりくださるにつきまして、二百文の鳥目をいただきました。それをここに持つております。」こう言いかけて、喜助は胸に手を当てた。遠島をおおせつけられる者には、鳥目二百銅を遣わすというのは、当時のおきてであつた。

(森鷗外「高瀬舟」より)

② **よく出る** 庄兵衛は、具体的にはどのようなことが聞きたくて呼びかけたのか。次の文の()に当てはまる言葉を書きなさい。

罪人たちはみな

のに、喜助は

のはなぜかということ。

(5) 線⑤ 「庄兵衛の気色をうかがつた」とあるが、なぜか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分が何か不適切なことをしたのでないかと思つたから。

イ 自分が弟を殺した理由を聞かれるのではないかと警戒したから。

ウ 自分の不真面目な態度を叱られることをおそれたから。

エ 役人と話をして親しくなるのによい機会だと考えたから。

(6) 線⑥ 「ほかの人には悲しいこととてございませう」とあるが、喜助は「ほかの人」と自分との違いをどのように説明しているか。次の文の()に当てはまる言葉を文章中から書き抜きなさい。

ほかの人は今まで

間て

が、自分は今まで世

を味わつてきた。

(7) **記述** 線⑦ 「何よりもありがたいこと」とあるが、喜助はどのようなことに一番感謝しているのか。簡潔に書きなさい。

練習問題 2

◆ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

- 平生、人には吝嗇といわれるほどの儉約な生活をしていて、衣類は自分が役目のために着るもののほか、寝巻しかこしらえぬくらいにしている。しかし不幸なことには、妻をいい身代の商人の家から迎えた。そこで女房は、夫のもらう扶持米で暮らしを立ててゆこうとする善意はあるが、豊かな家にかわいがられて育った癖があるので、夫が満足するほど手元を引き締めて暮らしをゆくことができない。ややもすれば、月末になって勘定が足りなくなる。すると女房が、ないしよで里から金を持ってきて帳尻を合わせる。それは、夫が借財というものを毛虫のように嫌うからである。そういうことは所詮夫に知れずにはいない。庄兵衛は五節句だといっては里方から物をもらい、子供の七五三の祝いだといっては里方から子供に衣類をもらうのでさえ心苦しく思っているのだから、暮らしの穴を埋めてもらったのがついては、いい顔はしない。格別平和を破るようなことのない羽田の家に、おりおり波風の起こるのは、これが原因である。
- 庄兵衛は今、喜助の話聞いて、喜助の身の上を我が身の上に引き比べてみた。喜助は仕事をして給料を取っても、右から左へ人手に渡してなくしてしまうと言った。いかにも哀れな、気の毒な境界である。しかし一転して我が身の上を顧みれば、彼と我との間に、果たしてどれほどの差があるか。自分も上からもらう扶持米を、右から左へ人手に渡して暮らしているにすぎぬではないか。彼と我との相違は、いわばそろばんの桁が違っているだけで、喜助のありがたがる二百文に相当する貯蓄だに、こっちはないのである。
- さて桁を違えて考えてみれば、鳥目二百文をでも、喜助がそれを貯蓄とみて喜んでいるのに無理はない。その心持ちは、こっちから察してやることができる。しかし、いかに桁を違えて考えてみても、不思議なのは喜助の欲のないこと、足ることを知っていることである。

25

20

15

10

5

- (1) 線①「不幸なことには」とあるが、庄兵衛にとってどのようなことが不幸なのか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 妻が、裕福な家に育った浪費家であること。
イ 妻が、儉約という方針を理解しないこと。
ウ 妻が、家計のやりくりが得意でないこと。
エ 妻が、あちこちに借金を作っていること。

- (2) 線②「いい顔はしない」とあるが、なぜか。次の文の□に当てはまる言葉を文章中から書き抜きなさい。

儉約家で

を嫌う庄兵衛にとって、妻が自分に

て実家から金銭的な援助を受けることが不愉快だから。

- (3) 線③「彼と我との間に、果たしてどれほどの差があるか」とあるが、この問いに対する庄兵衛の考えをまとめた次の文の()に当てはまる言葉を考えて書きなさい。

喜助と自分では、

は違うが、

点では同じだ。

- (4) 線④「大いなる懸隔」とあるが、庄兵衛が感じた「懸隔」の内容を説明した次の文の、二箇所□に共通して当てはまる二字の言葉を文章中から書き抜きなさい。

喜助はなんとか食べていけるだけで□していたのに対し、庄兵衛は暮らしに□を覚えたことはほとんどないこと。

喜助は世間で仕事を見つけるのに苦しんだ。それを見つげさえすれば、骨を惜しまずに働いて、ようよう口を糊のりすることのできるだけで満足した。そこで牢ろうに入ってから、今まで得がたかった食が、ほとんど天から授けられるように、働かずを得られるのに驚いて、生まれてから知らぬ満足を覚えたのである。

庄兵衛はいかに桁を違えて考えてみても、ここに彼と我との間に、大いなる懸隔けんかくのあることを知った。自分の扶持米で立ててゆく暮らしは、おりおり足らぬことがあるにしても、たいてい出納すいじょうが合っている。手いっぱいの生活である。しかるに、そこに満足を覚えたことはほとんどない。常は幸いとも不幸とも感ぜずに過ごぎしている。しかし心の奥おくには、こうして暮らしていて、ふいとお役が御免ごめんになったらどうしよう、大病にでもなったらどうしようという疑懼ぎきょが潜ひそんでいて、おりおり妻が里方から金を取り出してきて穴埋めをしたことなどがわかると、この疑懼が意識の隅すみの上に頭をもたげてくるのである。

いったいこの懸隔はどうして生じてくるだろう。ただうわべだけを見て、それは喜助には身に係累けいらいがないのに、こつちにはあるからだといっせまえばそれまでである。しかしそれはうそである。よしや自分が独り者であったとしても、どうも喜助のような心持ちにはなられそうにない。この根底はもつと深いところにあるようだ、庄兵衛は思った。

庄兵衛はただ漠然と、人の一生というようなことを思ってみた。人は身に病があると、この病がなかったらと思う。その日その日の食がないと、食ってゆかれたらと思う。万一のときに備える蓄えがないと、少しでも蓄えがあったらと思う。蓄えがあっても、また、その蓄えがもつと多かつたらと思う。かくのごとくに先から先へと考えてみれば、人はどこまで行つて踏み止まることができるものやらわからない。それを今、目の前で踏み止まって見せてくれるのがこの喜助だと、庄兵衛は気がついた。

庄兵衛は、今さらのように驚異の目をみはって喜助を見た。このとき庄兵衛は、空を仰いでいる喜助の頭から毫光ごうこうが差すように思った。

(森鷗外「高瀬舟」より)

55

50

45

40

35

30

(5) 記述 線⑤ 「この疑懼」とは、どのような不安か。簡潔に書きなさい。

(6) 線⑥ 「それはうそである」とはどういうことか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分が喜助のように満足できないのは、養うべき家族が多いからだ。
- イ 自分と喜助との違いは、養う家族の有無という理由では説明できない。
- ウ 家族がいらないから貧しくても満足できるという喜助の話は信じられない。
- エ 自分と喜助では境遇が違いすぎるので、理解しあえなくても仕方ない。

(7) 記述 線⑦ 「目の前で踏み止まって見せてくれる」とあるが、「踏み止まる」とはここではどのような意味か。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 先のことを考えるとわいてくる心配や欲望を抑えること。
- イ 衣食住の豊かさとは関係なく前向きな気持ちで生きること。
- ウ 貧しい生活であっても儉約して蓄えを増やしていくこと。
- エ 満足な暮らしができなくても人目を気にせず生活すること。

(8) 記述 線⑧ 「驚異の目をみはって喜助を見た」とあるが、庄兵衛は喜助のどのような点に気づいて驚いたのか。庄兵衛との違いに触れて、「足る」という言葉を用いて書きなさい。

へ連れてゆかれますまで、私は剃刀をそばに置いて、目を半分開いたまま死んでいる弟の顔を見つめていたのでございます。」

少しうつ向きかげんになって庄兵衛の顔を下から見上げて話していた喜助は、こう言ってしまった。視線を膝の上に落とした。

喜助の話はよく条理が立っている。ほとんど条理が立ちすぎているといつてもいいくらいである。これは半年ほどの間、当時のことを幾度も思い浮かべてみたのと、役場で問われ、町奉行所で調べられるその度ごとに、注意に注意を加えてさらってみさせられたのとのためである。

庄兵衛はその場の様子を目のあたり見るような思いをして聞いていたが、これが果たして弟殺しというものだろうか、人殺しというものだろうかという疑いが、話を半分聞いたときから起こってきて、聞いてしま

つても、その疑いを解くことができなかった。弟は、剃刀を抜いてくれたら死なれるだろうから、抜いてくれと言った。それを抜いてやって死なせたのだ、殺したのだとは言われる。しかしそのままにしておいても、どうせ死ななくてはならぬ弟であつたらしい。それが早く死にたいと言つたのは、苦しさに耐えなかつたからである。喜助はその苦を見ているに忍びなかつた。苦から救つてやろうと思つて命を絶つた。それが罪であらうか。殺したのは罪に相違ない。しかしそれが苦から救うためであつたと思うと、そこに疑いが生じて、どうしても解けぬのである。

庄兵衛の心のうちには、いろいろに考えてみた末に、自分より上のものの判断に任すほかないという念、オオトリテエに従うほかないという念が生じた。庄兵衛はお奉行様の判断を、そのまま自分の判断にしようと思つたのである。そうは思つても、庄兵衛は、まだどこやらに腑に落ちぬものが残っているの、なんだかお奉行様にきいてみたくてならなかつた。

次第にふけてゆくおぼろ夜に、沈黙の人二人を乗せた高瀬舟は、黒い水の面を滑つていった。

(森鷗外「高瀬舟」より)

50

45

40

35

30

(5) 喜助が庄兵衛に話をする様子として、最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 相手の同情を買うように、大げさに話している。
- イ 罪の意識に耐えられず、感情的に話している。
- ウ 言い訳はせずに淡々と、順序立てて話している。
- エ 心の中の怒りをおさえて、静かに話している。

(6) 線⑤「その疑いを解くことができなかった」について、次の各問いに答えなさい。

① 記述「その疑い」とは、どのような疑いか。次の文の()に当てはまる言葉を書きなさい。

ことが、果たして罪になるのだろうかという疑い。

② 庄兵衛は結局、この疑いについてどのように考えたのか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア お奉行様は決して判断を誤るはずはないのだから、自分もその判断に従う。

イ お奉行様の判断は間違っているように思われるので、異議を申し立てるべきだ。

ウ お奉行様の判断が正しくても間違っている、自分には関係がないことだ。

エ お奉行様の判断に任せるしかないと思う一方で、納得できない気持ちも残る。

に病があると、この病がなかったらと思う。その日その日の食がないと、食ってゆかれたらと思う。万一のときに備える蓄えがないと、少しでも蓄えがあったらと思う。蓄えがあっても、また、その蓄えがもつと多かつたらと思う。かくのごとくに先から先へと考えてみれば、人はどこまで行って踏み止まることができるものやらわからない。それを今、目の前で踏み止まって見せてくれるのがこの喜助だと、庄兵衛は気がついた。

庄兵衛は、今さらのように驚異の目をみはって喜助を見た。このとき庄兵衛は、空を仰いでいる喜助の頭から毫光が差すように思った。

喜助の話はよく条理が立っている。ほとんど条理が立ちすぎていってしまうくらいである。これは半年ほどの間、当時のことをイクタビも思い浮かべてみたのと、役場で問われ、町奉行所で調べられるそのタビごとに、注意に注意を加えてさらってみさせられたののためである。

庄兵衛はその場の様子を目のあたり見るような思いをして聞いていたが、これが果たして弟殺しというものだろうか、人殺しというものだろうかという疑いが、話を半分聞いたときから起こってきて、聞いてしまっても、その疑いを解くことができなかった。弟は、剃刀を抜いてくれたら死なれるだろうか、抜いてくれと言った。それを抜いてやって死なせたのだ、殺したのだと言われる。しかしそのままにしておいても、どうせ死ななくてはならぬ弟であつたらしい。それが早く死にたいと言ったのは、苦しさに耐えなかつたからである。喜助はその苦を見ているに忍びなかつた。苦から救つてやろうと思つて命を絶つた。それが罪であろうか。殺したのには罪に相違ない。しかしそれが苦から救うためであつたと思うと、そこに疑いが生じて、どうしても解けぬのである。

庄兵衛の心のうちには、いろいろに考えてみた末に、自分より上のものの判断に任すほかないという念、オオトリテエに従うほかないという念が生じた。庄兵衛はお奉行様の判断を、そのまま自分の判断にしようと思つたのである。そうは思つても、庄兵衛は、まだどこやらに腑に落ちぬものが残っているので、なんだかお奉行様にきいてみたくなかつた。

(森鷗外「高瀬舟」より)

20

15

10

5

30

25

(5) 記述——線④「踏み止まることができるものやらわからない」とあるが「踏み止まることのできない」とは、ここではどういう状態のことを言っているのか。簡潔に書きなさい。(20点)

(6) 線⑤「喜助の頭から毫光が差すように思った」とあるが、ここから読み取れる庄兵衛の気持ちとして最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。(10点)

ア 牢に入れられたのに満足している喜助への不信心。
 イ 自分には到達しがたい境地にいる喜助への敬意。
 ウ 自分より悲惨な境遇で生きてきた喜助への同情。
 エ 気持ちを包み隠さず話してくれた喜助への感謝。

(7) 記述——線⑥「疑いを解くことができなかった」とあるが、庄兵衛はどのような疑いを持ったのか。文章中の言葉を用いて書きなさい。(20点)

(8) 線⑦「自分より上のもの」とは、誰のことか。文章中から四字で書きなさい。(10点)

(9) 森鷗外の作品を次から一つ選び、記号で答えなさい。(5点)

- ア 草枕
- イ 羅生門
- ウ 舞姫
- エ 人間失格